

今週の為替相場見通し (2018年10月29日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		111.38 ~ 112.89	111.89	110.00 ~ 113.00
ユーロ	(ドル)		1.1336 ~ 1.1550	1.1405	1.1250 ~ 1.1450
(1ユーロ=)	(円)		126.64 ~ 130.20	127.60	126.00 ~ 128.50
英ポンド	(ドル)		1.2777 ~ 1.3090	1.2827	1.2650 ~ 1.3200
(1英ポンド=)	(円)	*	142.78 ~ 147.59	143.57	141.50 ~ 144.50
豪ドル	(ドル)		0.7021 ~ 0.7125	0.7087	0.6950 ~ 0.7150
(1豪ドル=)	(円)	*	78.57 ~ 80.32	79.35	78.00 ~ 80.50

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1) 今週の予想レンジ: 110.00 ~ 113.00 円

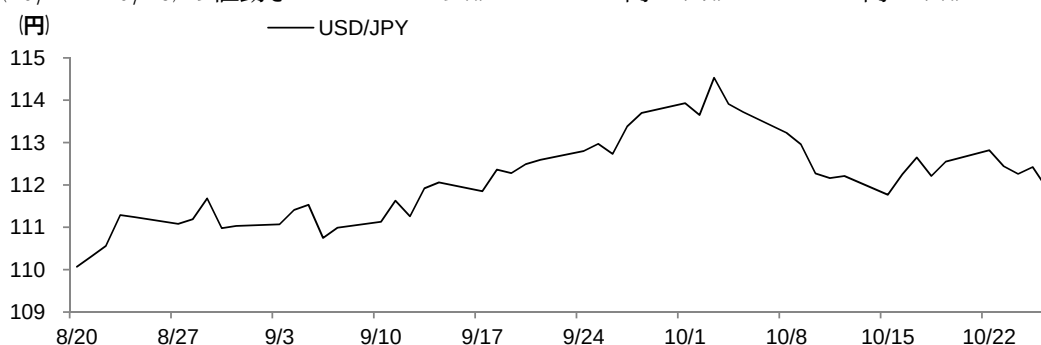
(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場はレンジ内での値動きとなった。週初22日に112円台半ばでオープンしたドル/円は、19日にトランプ米大統領が反政府記者の死亡問題を巡りサウジアラビアに対して制裁を検討する可能性を示唆したことを嫌気し112円台前半まで下落。しかし、中国の習近平国家主席が民間企業を支援する方針を発表したことを受けて中国株が急伸し、アジア株が全般的に堅調推移となる中でドル/円は週高値となる112.89円まで上昇した。23日はイタリア財政問題や米国とサウジアラビアの対立に対する懸念が響く中、前日に急伸した中国株が反落したことを受けて日経平均株価が下落する展開にドル/円は112円を割り込んだ。24日は対ユーロやポンドを中心にドル買い優勢地合いになると112円台後半まで値を上げたが、NYダウ平均が年初来マイナスに転じるなど米株の弱い値動きを背景にドル/円は112円台前半まで反落した。25日は日経平均株価が700円超下落する展開に111.82円をつけたが、ECB政策理事会後のドラギECB総裁の「入ってくる情報(経済指標)は予想よりも多少弱い」とのハト派的な発言を受けて対ユーロを中心にドル買いが強まり112円台後半まで回復。26日は米株先物や上海株が下落すると日経平均株価も下落し、ドル/円も重い展開。米株の弱い値動きを背景に週安値の111.38円まで下落。その後米株が下げ幅を縮小するとドル/円も反発し111.90円付近で越週した。

今週のドル/円相場はレンジ内での推移を予想する。これまでのドル/円は、良好な需給環境の中で112円前半では支えられる展開が続いていたが、米株市場の下落により一時111円台前半まで下落している。VIX指数も24と高止まりしていることから、米企業のブラックアウト期間の終了に伴い自社株買いが復活していくと予想されるものの不安定な相場は継続し株式市場を見ながらの値動きとなるであろう。一方、株式市場の下落にも米長期金利が下がりにくくなっていることや、重要米経済指標が発表される週でもあるために米10年債利回りの動向次第では引き続きドルがサポートされる展開も考えられる。本邦では、30~31日に日銀金融政策決定会合が開催されるも、特段の政策変更は行われない見込み。引き続き良好な需給環境とリスクセンチメントの下落圧力の中で綱引きとなるだろう。111~113円でのレンジ推移を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (10/22~10/26) の値動き: 安値 111.38 円 高値 112.89 円 終値 111.89 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 1.1250 ~ 1.1450 126.00 ~ 128.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドルは下落する展開となった。週初22日、1.15台前半で取引を開始したユーロ/ドルは大手格付け機関がイタリア国債の格下げを発表したものの、ジャンク級への格下げとはならなかったことから週高値1.1550まで上昇。しかしBrexit懸念の高まりやイタリア懸念が根深いことからユーロ/ドルは1.14台後半まで下落。23日、ユーロ/ドルは引き続き上値重く推移し、1.1439まで続落するも、EU側から「英国全土を関税同盟に残すことをメイ英首相に提案する用意がある」との報道から1.1494まで反発。24日、独10月マークイットPMIやユーロ圏10月マークイット製造業PMIが予想を下回ったことから1.1378まで大きく下落。25日、ECB理事会では金融政策の現状維持が決定され、市場の予想通りであったものの、1.1433まで上昇。しかしその後の会見でドラギECB総裁が「経済指標は予想よりも多少弱い」と発言したことやイタリア財政への懸念から1.1357まで反落。26日、OIS市場が織り込む2019年9月の利上げ確率が50%を下回ったことでユーロ/ドルは週安値1.1336まで続落。その後はポジション調整やドル売りの流れとなったことで反発し、1.1400付近で越週した。週初22日、ユーロ/円は129円台半ばで取引を開始。上述の通りイタリア国債がジャンク級への引き下げを免れたことからユーロ/円は週最高値130.20円まで上昇するも、ユーロ/ドルとドル/円が下落したことで25日にかけて127.50円まで下落。その後、ドル/円が底堅く推移する中、ユーロ/円は128.43円まで連れ高となるも、ECB理事会後のドラギECB総裁の会見を受けて26日には週安値126.64円まで下落し、127円台半ばで越週した。

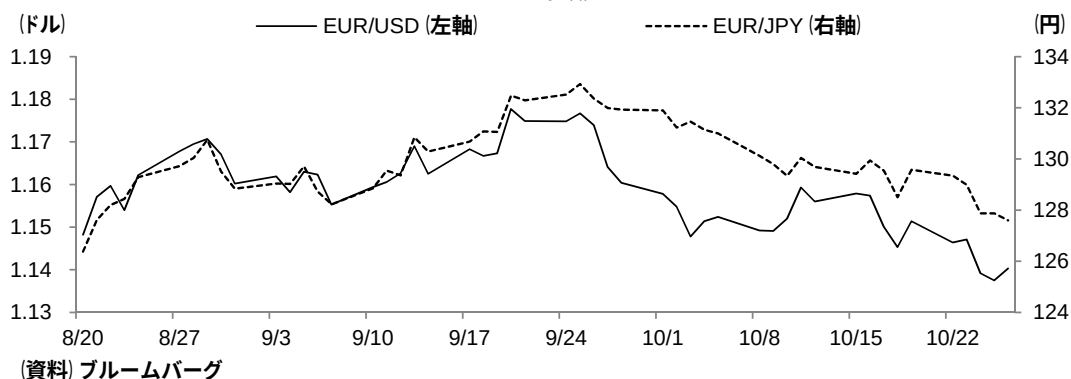
今週のユーロ相場は下落しよう。まずイタリア財政に関してだが欧州委員会はイタリアがEU規則を破っているとして2019年度予算案を拒否した。同国は3週間以内に修正案を提示する必要があるものの、ディマヨイ副首相は欧州委員会による拒否を想定していたと言及し、対立姿勢を明確にしている。今後の日程としては11月5日(月)にユーロ圏財務相による月例会合、11月13日(火)の修正予算案の提出期限が予定されているが、いずれも来週以降の日程であることから今週に関してはイタリア財政懸念が好転する可能性は低いと見料。引き続き同問題はユーロ相場の上値を重くしよう。また、ドラギECB総裁が指摘した通りユーロ圏の経済指標の弱さが目立ってきている印象だ。これまで好調であったドイツの指標も雲行きが怪しくなる中、欧州株下落によってユーロ売りの流れになる可能性は高いだろう。今週の重要イベントは30日(火)にユーロ圏10月景況感指数とユーロ圏7~9月期GDP、11月2日(金)にユーロ圏10月マークイット製造業PMIの発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (10/22~10/26) の値動き:

(対ドル) 安値 1.1336 高値 1.1550 終値 1.1405

(対円) 安値 126.64 高値 130.20 終値 127.60



3. 英ポンド

欧州資金部 Kyoko Sei

(1) 今週の予想レンジ: 1.2650 ~ 1.3200 141.50 ~ 144.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は小幅に上昇する局面も見られたものの、おおむね下落基調で推移した。米国株の下落を発端としたリスクオフ基調の中、イタリア予算案問題や英国EU離脱交渉が引き続き難航していることがポンド売りと呼んだ。週初、ポンドドルはアジア時間堅調に推移したものの欧州時間に入り下落。公表された英10月家計指数は45.1と前月の45.7から低下、併せて公表された向こう12か月の期待インフレ率も2年ぶりの低水準となりポンド売り材料となった。欧州時間昼ごろ、北アイルランド政党が強硬離脱派を支持する旨が報じられるとポンドはもう一段下落。今月4日以来となる、1.30を下回る水準をつけた。翌23日は材料がない中ドル売りをうけてポンドドルは小幅に上昇に転じ、22日の下げ幅を縮小する形で推移した。24日欧州時間朝方に公表されたEU10月製造業PMI並びに独10月製造業PMIは市場予想対比大幅に下振れ、ユーロが8月以来の水準まで下落したことを受けてポンドも連れ安となった。25日に行われたECB政策理事会はほぼ無風で通過したものの、米国市場オープン後に株式が堅調に推移したことでドル買い基調となり、ポンドドルは下落した。26日も続落。欧州株がほぼ全面安でオープンしたことを受け、リスクオフ基調で推移。米系格付け機関によるイタリア格下げの可能性が懸念される中、ユーロの下落に連れられる形でポンドも下落。欧州時間昼ごろ週内安値である1.2777を付けニューヨークに渡った。

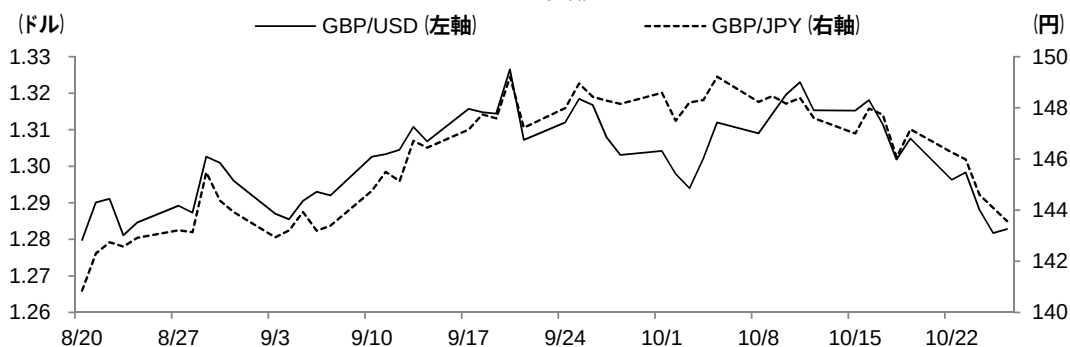
今週の英ポンド相場は、引き続き上値重たく推移すると予想。引き続き英国EU離脱交渉はメインテーマとして注視される。加えて茲許のポンド相場はイタリア予算問題や欧州景気指標の下振れによる経済の失速懸念などEU域内の情勢を受けたユーロ安の影響を受けており、こちらの動向もサブテーマとしてポンド相場の材料になるだろう。来週の主な指標・イベントは以下の通り。29日(月)住宅ローン承認件数、1日(木)マークイット英国製造業PMI、2日(金)マークイット英国建設業PMI。1日(木)にはBOEが控えているものの、今回会合では政策金利の据え置きが市場のコンセンサス。インフレーションレポートの内容には注目が集まるが、ポンドドルは先週すでに大きく水準を切り下げしており内容の悪化への反応は限定的だろう。また29日(月)には英国予算責任局による2019年度及び2020年度の予算案公表を控えている。予算案の通過には民主統一党の閣外協力が欠かせないものの、北アイルランドの英国への帰属を望む民主統一党はこれを交渉材料にする可能性があり、予算案の通過可否には注目が集まる。予算案が否決された場合にはメイ首相の不信任決議・解散総選挙につながる可能性が高まる。メイ首相自身も予算案の公表を控えて北アイルランド問題についての発言を控えているように見受けられるが、メイ首相の不信任決議もリスクシナリオとして留意したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/22~10/26)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2777 高値 1.3090 終値 1.2827

(対円) 安値 142.78 高値 147.59 終値 143.57



(資料) ブルームバーグ

4. 豪ドル

為替営業第二チーム 菊池 雄太

(1) 今週の予想レンジ: 0.6950 ~ 0.7150 78.00 ~ 80.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は下落した。週初22日、0.7120付近でオープンし0.70後半まで下落したが、中国政府が個人所得法の大規模改革の一環として、個人を対象とした課税控除に関する新規の草案を好感し、中国上海株式が上昇すると、週高値となる0.7125まで上昇した。しかしその後は、英国のEU離脱交渉で北アイルランド問題を巡る紛糾等からの英ポンド売りやイタリア予算案に絡む政治的な不透明感からのユーロ売りで総じて米ドル高となり、豪ドルは0.7080を割り込んだ。23日、材料に乏しい中、アジア株式の下落に伴い、0.7060を割り込む場面もあった。24日、アジア時間では、一時0.7100を回復する場面もあったが、弱い米住宅指標やまちまち企業決算などからNYダウ平均とS&Pが年初来の上昇分を解消する中、リスクオフで豪ドルは、再び0.7060付近まで下落。25日、0.70後半での動き。欧米株式は買い戻されたが、依然として不安定な株式に警戒感は強く、上値が重い展開。26日、アジア株が軟調な中、人民元が対ドルで16年末以来の安値をつけ、リスクオフの強まりから豪ドルは、一時0.7050を割り込み、16年2月以来となる0.7021まで下落した。しかしその後は、ドルが幅広い通貨に対して弱含んだことなどから、豪ドルも反発し、0.7087で越週した。中国人民銀行の副総裁は、最近の人民元安は、市場の需給や国際市場のボラティリティを反映しているとの認識を示した。先週の豪ドル/円相場は、下落した。22日、豪ドル/円は、先々週に続き、総じて80円を挟んだ動き。23日、イタリア財政や米国とサウジアラビアの対立が懸念されたこと等を背景にアジア株式が大幅安となる中、リスクオフ的な円買いが優勢となり、豪ドル/円は一時79円付近まで下落した。24日、アジア時間には80円を回復する場面もあったが上値は重く、米国時間では、弱い米新築住宅販売件数などを嫌気し、NYダウ平均が600ドル超の下落。リスク回避が強まり、79.20円付近まで下げた。25日、好調な企業決算を背景に米株式市場が反発したことから、豪ドル/円は79円後半まで反発。26日、人民元安などを背景にリスクオフから、直近の安値を下回り、2016年11月以来の水準となる78.60円付近まで下落。しかしその後は、反発し、79.35円で越週した。

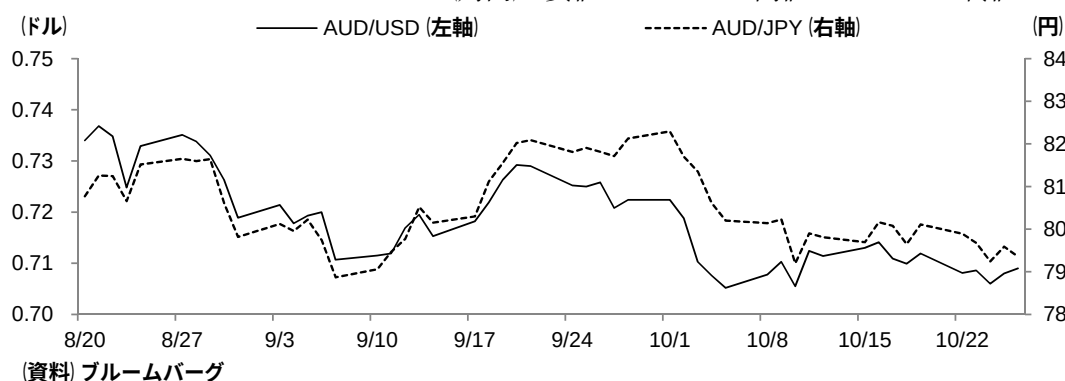
今週の豪ドルは、引き続き上値の重い展開が継続し、注目される節目の0.7000を意識した展開を予想する。米中貿易摩擦の懸念やイタリアの財政懸念、英国のEU離脱交渉などを背景に、世界的に株式市場は不安定な動きを見せている。ドル買いまたはリスク回避の反応を受け、しばらくは利上げが見込まれていない豪ドルは売られやすい環境か。特に今月に入り、大幅下落する株式市場を背景にリスクオフの円買いが強まり、豪ドル/円の下落が豪ドルストレートの下落を先導している模様である。また、海外勢は、アジア時間の株式市場の下落のヘッジとして、流動性が高い豪ドル/円を売る傾向があるため、拍車がかかっている。加えて、米商品先物取引委員会(CFTC)が発表しているIMM通貨先物によると、2015年3月以来のショートポジションを引き続き抱えており、豪ドルの弱さが伺える。今週の経済指標では、豪州経済の先行きに重要な中国10月製造業PMIの発表があるため、中国の指標には留意したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (10/22~10/26) の値動き:

(対ドル) 安値 0.7021 高値 0.7125 終値 0.7087

(対円) 安値 78.57 高値 80.32 終値 79.35



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。